『悲劇をなくすために』

北海道
海星学院高等学校　三年
中村（なかむら）　乃愛（のあ）

「命は大切」ということは幼少期の頃から教わっているし、理解していると思っていた。しかし、私は今まで本当の意味がわかっていなかった。どこかで他人事のように考えてしまっていたのだと思う。ニュースで悲報を聞いても悲しい気持ちになってそれで終わりだったし、命の危機を感じるなんてことは非日常だと思い込んでいたのだと思う。その裏でどのような悲劇が起きているかなんて知りもしなかった。

私は「悲劇をなくすために」という髙石洋子さんの講演に参加する機会があった。そこで飲酒運転の悲劇と命の本当の大切さを学んだ。髙石さんは、二〇〇三年、飲酒運転による事故で当時高校一年生だった息子を亡くした。高校一年生、私と同じくらいの年齢だ。想像しただけで心にくるものがあった。その上、その時代にはまだ法が改正されていなかったそうだ。加害者は事件後逃げたことによって刑が軽くなるということが起こっていた。そんなことが起こっているなんて知らなかった。なぜ加害者が得をしてしまっているのか不思議でたまらなかった。しかし、それが日本の法律だったのだ。その後、髙石さんは、飲酒運転の厳罰化などを求めて署名活動等を行ってこられたそうだ。そして、その行動が今の法律に変わるきっかけとなった。その法律はまだ不十分ではあるものの、厳罰化をきっかけに事故件数は大幅に減ったそうだ。そのような悲劇を経験し、「未来のために」「悲劇がなくなるために」と活動してくださっている方々に本当に感謝しなければならない。しかし、それでも、なお事故は発生し、無惨にも罪のない人々の命が簡単に失われている。考えたくはないが、それは突然身近で起こるかもしれない。だからこそ、次は私たちがその思いを伝えていかなければならないのだと強く感じた。私たちも未来のために行動をしなければならない。私は講演の最後に、髙石さんがおっしゃっていたことが深く印象に残っている。それは「これからの未来をつくるのはあなたたちです。」という言葉だった。本当にその通りだと思う。髙石さん方が繋いできた思いと努力を次は私たちが引き継いでいかなければならないのだ。誰もが安全で安心して暮らせる社会は、誰かがつくってくれるのではなく、みんなが、私たちがつくっていかなくてはいけない。みんなが交通ルールを守ること、自分の命を大切にすること、他人の命も大切にすること、私たちにできることはたくさんあると思う。

私は今まで、なぜ自分の命がそこまで大事なのか、本当の意味を理解していなかったと思う。しかし、髙石さんの「親はあなた方が宝物です。」という言葉を聞いて、ほんの少しだがわかった気がする。髙石さんは、一人の親としてこどもの命の大切さを語ってくださった。親からこどもの命に対しての正直な思いを聞くのは初めてだったが、たくさんの悲しみと苛立ち、そして悔しさを聞いて、今まで私は、自分の命の価値を軽く、安易に考えてしまっていたことに気づいた。自分の命に価値はないだろうと感じたときもあったが、その考えは

間違っていた。私が価値がないと考えていたその命は私自身のものだけでなく、家族や大切な人のものでもある。そんなことに今更ながら気がついた。私の命は私が思っている以上に大切な命だったのだ。苦しいともがきながら生きている時間も幸せを感じながら過ごす瞬間も全て、命があったからこそ感じることができた経験だ。命を落としてしまうことが、どれだけのことなのか。何があっても、簡単に命を失ってよいものではないことに改めて気づかされた。

生きている以上、誰もがいつかは必ず死ぬ。だからこそ、自分の命を大切にして生きなければならない。学校に行き、部活をし、家に帰ると「おかえり」が待っていて、安心して眠りにつける。そんな毎日を過ごせていることは当たり前ではないと気づくきっかけをくれた髙石さんに感謝をしたい。そして、自分自身の命を大切にするのはもちろん、他人の命の大切さも理解して、たくさんの人が安心して暮らせるような社会になることを願いたい。